

縄文の華～縄文時代晩期の土器～



2010年9月8日（水）～ 9月21日（火）

山形空港株ビル 2階多目的ルーム

宮の前遺跡

今年度は、東北中央自動車道の建設に伴い、村山市内で多数の遺跡発掘調査が行われています。そこで、今回は村山市で見つかった作野遺跡や宮の前遺跡の土器を展示します。これらの遺跡は、主に縄文時代晩期のもので良質な土器が多数出土しています。縄文時代の土器の中でも流麗、優美で華やかな縄文時代晩期の土器は「華」と呼ぶにふさわしく、その華麗さをぜひ皆さまにご覧になって頂きたいと思います。



宮の前遺跡（浅鉢の図）

普段は見えない鉢の底にも波のような幾何学文様が描かれています

粘土を用いて作られた土器は、作り手の意思によってどんな形にもなります。縄文人はそこにつくる喜びと、遊び心を吹き込んだのかもしれませんが。

縄文時代晩期の土器は単に物を盛ったり、蓄えたりする働きだけでなく、その形や文様に趣向を凝らした作品が多く見られます。



財団法人 山形県埋蔵文化財センター

〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目15番1号

TEL 023-672-5301 FAX 023-672-5586

URL : www.yamagatamaibun.or.jp

さく の 作野遺跡

(縄文時代晩期)

作野遺跡は村山市の東側にあり、これまでに3度の発掘調査が行われています。調査では縄文時代晩期末から弥生時代初頭の出土品が見つかっており、山形県の縄文時代から弥生時代に移行する時期の生活の様子を知る手がかりとなる遺跡と考えられています。



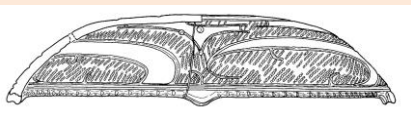
浅鉢の裏



突起のある土器



深鉢



浅鉢（裏）の実測図



鉢

みや

まえ

宮の前遺跡

(縄文時代晩期)

宮の前遺跡では、縄文時代の初期から晩期および平安時代と中世の出土品が見つかっていますが、その大半は縄文時代晩期のものです。約1万年続く縄文時代の中でも晩期の土器は、形や文様がバラエティーに富み多様になります。もちろん器種が増えるのは、用途に応じて形状を変化させていった結果と考えられます。より豊かな生活になるよう工夫した縄文人の知恵は、すばらしいものです。

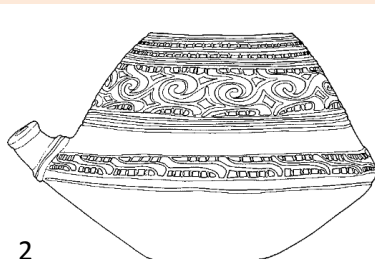
注口土器：注ぎ口のついた土器



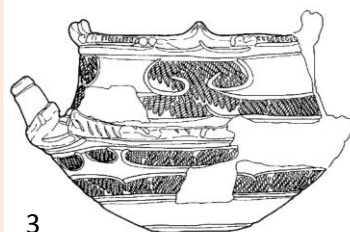
浅鉢



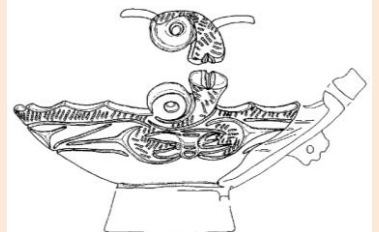
1



2



3



4 飾りのついた土器



5

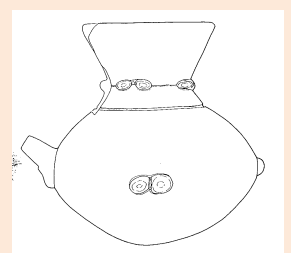


5



6

注口土器



6 こぶのある土器

変わった形の鉢